

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を反映しグループホームの理念「一人一人を大切にしながら多くの友人を持ち地域の一員としてその人らしく豊かな人生を送るようにする」をもとに管理者と職員が理念を共有し実践している。	昨年、ユニット毎で話し合って作成した理念は各ユニット玄関正面に大きな額(訪問者はガラス越しにそれを目にする事が出来る)に入れて掲げられている。職員は日々、理念の実践に努めている。スタッフ会議において日々のケアや利用者一人ひとりについて検討する時、理念に沿ったものであったかどうか振り返り、意識付けをしている。職員は法人理念も含め自らの言葉で語ることが出来る。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月近くの図書館へ外出、買い物外出して地域のひとと触れあい、地域の運動会に参加、老健の夏祭りになどに参加し合う事で相互の活動に興味を持って、日課の散歩など近隣の方々に声を掛けお互いに顔見知りになる様に機会を作っている。	日常的にホーム周辺へ散歩に出掛け、出会う住民と挨拶を交わし積極的に接している。恒例となっている老健との共催の“夏祭り”には利用者家族や住民が大勢来訪している。老健へ年4回訪問している小学5年生がホームにも来て折り紙などを利用者としている。中でも将棋の真剣勝負は利用者を大いに喜ばせている。アコーディオンや紙芝居など様々なボランティアも来訪し利用者で交流している。福祉や医療の専門学生の実習場所にも開放している。近所付き合いを深めながら地域活動や行事にも参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回催し、地域の一員としてあり続けるために交流、ボランティアなど積極的に受け入れ理解していただける場を持つように心掛けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の方の状況を説明しながら日々実践した行事、クラブ活動の成果を報告し、会議で頂いた意見は次回までに回答できる様、会議録を通して全職員に周知し向上に努めている。	会議は奇数月の月末水曜日10時から利用者家族、区長、民生委員、地域包括センター職員を委員に定期的に開催されている。ホームの活動報告後に自由討議があり、お互いに意見を述べ合う時間が設けられている。家族代表者も議題を投げかけ、区長からの情報や提案は役立つことが多いという。地区運動会は例年9月始めに行われるが、残暑等で月末にと希望したところ今年に変更されることになった。議事録は詳細に記録されており各委員が積極的に意見や助言を述べており、有意義な話し合いが行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居者の方の状況に応じ連絡や市よりの相談など協力関係を築くようにしている。	ホームは運営推進会議以外にも担当の包括支援センター職員と連絡を密に取りあっている。あんしん(介護)相談員は毎月来訪し、利用者との話しの記録を残している。介護認定の更新申請は家族の依頼を受け代行している。区分申請に関しては該当者家族と相談した上で申請している。認定調査員が来訪した時には本人の状況を伝えている。市主催の会議や研修会には積極的に出席し情報を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフ会議など意見を出し合い、お互いに学習し勉強しながらケアに取り組んでいる。	法人内に身体拘束廃止委員会があり、ホームからも2名が委員として会議に出席している。現在、立位不安定で転倒を繰り返す利用者には、本人・家族と相談し了承の上、書類を作成しY字型拘束帯を着用している。スタッフ会議で毎月着用の必要性等を検討している。職員は身体拘束その他利用者の行動を制限する行為とその弊害を認識しており、日々の言葉掛けや対応の中で拘束に当ることはないか振り返っている。	

医療法人博人会桜グループホーム・2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学習会、勉強会を実施しながら防止に努め、お互いのケアを見直している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	パンフレットを回覧し全職員へ周知している。研修や市民後見人の研修を受け入れお互い話し合いをしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前説明を含めご家族やご本人の希望や不安を聞き、十分説明の上同意書等の記入を頂き、入所後の生活が円滑に進む様努めている。解約に関しても段階的に話を進め情報提供など出来る限り行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月一回のあんしん相談員やご家族の面会等にご本人の言葉などを聞き取り、入居者の状況把握に努め、日々業務を見直していきけるよう話し合いをしている。	利用者の多くは意見、要望を表出できている。例えばテレビで善光寺を見て「善光寺に行きたい」と希望が出ると行事に組み入れるなど、サービスに反映させている。家族会は年1回開かれている。殆どの家族が夫婦で、また孫も連れて参加し、昼食を一緒に摂りながら本人と家族、家族間、家族と職員間の和やかな話し合いの中から意見・要望をキャッチしている。また、年2回家族と職員のお茶会を開催し、積極的に意見・要望を伺い運営に反映させている。家族は意見箱を通してでなく、何かあれば直接職員に伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的で開催している運営推進会議にてご家族の希望や要望を聞き、その場で回答出来る事は行い、検討が必要な事は全職員で意見交換しケアに反映できる様勤めている。面会等もご家族とコミュニケーションを取り意見を聞けるよう配慮している	各ユニットでスタッフ会議が開かれ、利用者のこと、介護計画の見直し、行事のこと、法人からの報告等が行われている。職員は議題に沿って意見を出し合っている。人事考課制度が導入されており、職員は年2回、力量評価表を基に所長(管理者)と面接し、要望や提案を伝え、業務以外のことも話している。また、実務年数の長い職員には介護支援専門員や介護福祉士等の資格取得を奨励している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表を取り組む段階で把握できている行事等に関して職員の多く配置し、通常勤務での対応が困難な場合、出退社時間を調節している。興味ある研修には積極的に参加できる様努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎年ISO上の研修が定期的であり、また法人内外の研修にも希望者を出来るだけ参加出来る様にスキルアップを目指している。研修報告を全職員に報告し業務に反映出来る様に心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修、グループホーム連絡会に参加して情報を交換を行ったり意見を持ち帰り検討している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	心のケアに重点を置き訴えなどを傾聴し負担を取り除くようにご本人の言葉を聞き丁寧に質問に答え、また必要と思われる事はこちらから質問しグループホームをより理解して頂ける様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接から契約時まで希望、要望を聞き意見交換をし、グループホームの生活に慣れる様共に考え入所までに蜜に連絡を取り合う様心掛けています。事前の情報収集はケアマネージャに行いご本人の理解に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	福祉用具購入などの対応をしている。業者の方に来て頂き相談しご本人、ご家族納得の上購入している。他施設の紹介についても連絡先を伝える。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームの理念にうたわれている様にその人らしく豊かな人生を送れる様に自立支援しながら関係作りすすめている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時家族会等なるべくご家族との触れ合う時間を持てる様支援し、お知らせなどで情報を伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会制限はない為いつでも対応出来る様にしている。ご家族以外との外出の際は必ず了解を得る様にしている。	土、日曜日やお盆、年末には家族以外に親戚の来訪が多くなる。利用者が利用前に住んでいた地区の民生委員が敬老のお祝いを届けに見えている。法事などで親戚が大勢集る時に自宅に帰る利用者、馴染みの美容師に出張してもらいパーマをかける利用者、遠方の娘から時折届く絵手紙のお礼を息子が面会に来た時に電話で伝える利用者など、一人ひとりかけがえのない人達との関係が続くようにと訪問し易い環境づくりに努め、来訪者を温かく迎えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	新しい入居者を迎える場合既存の関係を壊さない様に配慮している。新しい入居者を受け入れ認め合える様ケアし、能力を発揮出来る様な支援し新しい人間関係を築ける様に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された以降ご家族からの連絡はないが、必要に応じて相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事前面接の際ご家族やご本人の今までの暮らしをグループホームでの希望、意向の聴取しその人らしく豊かな人生を送る様に全職員検討している。	利用後も一人ひとりが自分らしく暮せるように利用前の生活歴や日々の関わりの中で把握する思いや意向をアセスメントしながら日々の生活に役立てている。利用当初、畳の生活を望み、落ち着けなかった利用者が職員の勧めで中断していた習字を再開し、褒められたことがきっかけで今は献立を毎回ボードに書き出すことや歌詞を大きな紙(和紙など)に書くなど書道を通して生き生きと生活している。兄弟を戦争で失った利用者は軍歌を嫌がっていたが何時しか全身で力強く歌うようになった。息子さんは元気に軍歌を歌う姿を見て「軍歌を歌うひことは知らなかった」と驚かれたという。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族より今までの生活歴を聴取しグループホームのケアに取り入れ、必要に応じて居宅のケアマネージャーに情報提供を願い出る事がある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の生活歴、希望を考慮しながら自立支援し、抱えている問題を早期に把握して様々な方向よりケアに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	事前の情報、ご家族以外などの聴取を含めてグループホームでの生活をしていく為の本人、家族関係者の話し合いを意見や要望など全職員で話し合いご本人の介護計画を立てられる様努めている。	本人や家族の暮らしに対する意向を基に本人のホームでの日々が活性化できるよう計画作成者を中心に職員の意見や気づきを加え一人ひとりの介護計画が作成されている。毎日実施状況を確認し、毎月評価しながら短期目標の見直しを概ね3ヶ月ごとにスタッフ会議で検討している。殆どの利用者家族が介護計画の説明を受け一緒に話し合っており、介護計画への関心度が高いことが窺えた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	グループホームでの生活の様子ご本人、ご家族の要望、医療、他入所者との関係などを基にカンファレンスを行い見直ししている。		

医療法人博人会桜グループホーム・2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームでの生活維持が困難になった場合、併設の老人保健施設、デイケア、居宅支援事業所など紹介を必要に応じて行うように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方との防災訓練を行い災害時に備え、ボランティアさんなど積極的に受け入れ外部との交流を行うように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日々の記録や介護士の情報により看護師が情報提供書等の作成をし主治医にも状況把握して頂いている。	家族の希望で同法人の医師に主治医を変更する場合には前のかかりつけ医からの診療情報提供書や診断書等で引継ぎが行われており利用後も継続した医療が受けられるようになっている。利用者一人ひとりの心身、健康状態等は看護師が情報提供書を作成し医師に届けており、週一回の往診時に診察を受けている。利用者の状態によっては主治医が協力医療機関と連携し、適切な医療が受けられるようになっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置し医療面でのケアをし介護士にも伝え、介護士も日々情報を提供し状況の変化に対応し支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療期間があります。情報提供書を作成し入退院時情報を交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携体制加算により看取りの指針に沿って行う支援している。ご本人、ご家族、看護師、管理者、介護士との話し合いをし、十分説明をして方針を共有する事に努めている。	看取り介護に関する指針が作成されている。重度化した場合や終末期支援について職員は事業所の方針を共有している。利用者の状態変化に伴い家族、主治医、看護師等が話し合い、医療機関、関連施設等へ移設している。終末期をホームで過ごしながらか状態悪化のため救急車で医療機関に移された後、暫くして最期を迎えた事例もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルに沿って応急手当、救急車の要請をし、スタッフルームの目に付く所に置いて、常に訓練を行い確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年何回も日中、夜間想定し災害時に備え日々訓練をし、避難訓練など地域の方も協力して頂いている。	年2回消防署、地域住民の協力の下、夜間想定での避難訓練を併設の老健施設と合同で行っている。通報や消火訓練、利用者参加の避難誘導訓練も同時に行われている。2階の利用者はベランダに出てから避難階段を降りるため毎回参加者は1～2名のため、全職員避難訓練の日を設け、避難誘導方法を検討し、利用者全員参加での訓練の実施を目指している。1階、2階共に避難口を把握しており、夜勤では非常口や火元の確認をしている。ガスは19時～翌朝6時までホーム外にある元栓が締められようになっている。	今回の防災訓練では利用者全員参加の避難誘導訓練が行なわれることを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報保護法により記録物に関して使用目的を明言した同意書を頂いている。個々のケアに配慮している。	苗字に「さん」をつけて呼ばれている利用者が多い。自宅にいる時からの愛称「〇〇ちゃん」、また、お店の名前で呼ばれたいなどの特殊なケースもあるが、職員は個人を敬い、気持ちよく過ごせるよう希望に沿い声掛けしている。利用者の尊厳を守り、個人情報の保護に努めつつ、必要時には個人情報をも市町村、介護保険者、医療機関等へ提供する趣旨を契約時に利用者、家族等へ説明し、同意書を交わしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その人らしい豊かな人生を送れるように入居者中心にケアし、レクリエーション、散歩、クラブ活動など声掛けし参加出来る様努め、参加されない場合も何か提供し声掛けしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の要望に沿うように努めているが、全部受け入れる事は出来ない。買い物、図書館外出、クラブ活動など支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望によりご家族に連絡し訪問美容室を利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	壹日一食は食事作りを頂いています。他二食は盛り付け、をお手伝いをして頂き、毎食片付けなど一緒に行っています。	訪問日、2階は厨房から届いた屋食であった。屋食レクとしてちらし寿司、にぎり寿司、混ぜ御飯、焼きそば、スパゲティ等が作られている。「個々の食事はどうだね?」との問いに、「調度好みの味でどれも美味しい」と応えると、「この料理は本当にうまい、最高だね」と元ホテルマンの利用者が褒めると他の利用者もうなずいていた。テレビに見入って食事に集中できない利用者もいるため食事中はテレビを消しており、静かな会話ではあるが落ち着いたランチタイムであった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士さんの基に食事が提供され、食事量、水分などチェックしたり把握しながら提供している。刻みの必要な方は刻んで提供している。		

医療法人博人会桜グループホーム・2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛けをし誘導の必要な方、残渣確認が必要な方の支援をしています。夜は義歯をお預かりし洗浄の支援しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者一人々の状況を把握しご家族の了解を得ながら、必要物品を使用して自立出来る様に支援している。WC誘導、声掛けなど行っている。	利用開始当初は全利用者がリハビリパンツであったが排泄チェック表や仕草、行動などから一人ひとりの排泄パターンを全職員が共有し熱心に取り組んだ結果、全利用者が布パンツまたは失禁パンツに改善された。今では殆ど利用者本人に任せており長時間トイレに行かない場合のみ声を掛けている。普段言葉にしないことを言う場合(例えば「今日帰りたい」)は失禁していることがある。夜間のみポータブルトイレを使う方が各ユニットに2~3名いる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給を多くし、腹部マッサージ、運動など取り入れ予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望や自立により見守りの方もおられ、約一日おきに入浴の支援しています。季節浴など楽しんでます。	毎日入浴が可能である。入浴前にはバイタルチェックをしている。入浴後の着替えの準備も利用者と一緒にしている。普段は入浴剤を入れているが季節の風呂(菖蒲湯、柚子湯、リンゴ湯など)も楽しんでいただいている。2階ではリンゴ湯は勿体ないと言う利用者もいる。一日おきに入浴している利用者が多い。入浴を拒む利用者はいないが声かけのタイミングで断られるケースもある。浴室の中央に浴槽があり3方向から介助が出来、出入りも可能である。一人ひとりゆっくりと本人のペースで入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペースで入眠される様、温度、湿度の調節、照明の調節、定期的に換気を行っています。		
47		一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師と共に目的、副作用などの勉強しWチェック、トリプルチェックして確認し誤薬を予防しています。服薬変更の際は全体ノート、入れ物の上に記入している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の残存能力を生かしながら生活歴や力を考え興味を持てる家事支援、レクリエーションの提供、クラブ活動など支援している。		

医療法人博人会桜グループホーム・2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している	日課である散歩、買い物、図書館外出、外食、ドライブ、保育園との交流、地域の運動会など支援している。	日常的にはホーム周辺を散歩している。車椅子の方も一緒に出掛けている。行事ドライブでは春は桜の名所、バラ園、秋は紅葉狩りに出かけている。外食では高速道のサービスエリア、バイキング、回転寿司、お菓子処等、利用者の希望に沿い何処へでも楽しみに出かけている。利用者の食べっぷりには何時も職員は驚かされている。外出を嫌がる利用者は殆どいない。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはご家族の了解が必要になっている。買い物外出では支払いの支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙、葉書(年賀状)、TELの希望など住所、番号の間違えがないか支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール、キッチン、WCなど各々清掃し、花を飾り季節感を感じて頂き、居心地良く過ごせる様に工夫している。温度、湿度調節などに配慮している。	居間兼食堂がワンフロアとなっている。談話室があり面談室としても使われている。食堂から時折走り去る新幹線が見える。フロアの壁には利用者の作品(習字や貼り絵)が飾られ、笑顔が並ぶ外出時の写真も掲示されている。斑入りのススキと鮮やかな赤紫のアスターの花が夏から秋へ変わる雰囲気漂わせている。食後、利用者はテーブルを囲み、お茶を飲んだりソファでくつろぎながらテレビを見ていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにて円になりお互いにお話したり、レクリエーション、体操、合唱されたり居場所の工夫している。各居室で好きな時間を過ごす事もあります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時今までの使い慣れた物など持ち込まれ環境作りをしています。(椅子、写真、本、人形など)	居室の戸を開放してもプライバシーが守れ、目印にもなる暖簾が下がっている。広めの居室にはベッド、ユニット風洗面台、収納家具やパネルヒーターが取り付けられている。家族から送られてきた絵手紙や自らの手による貼り絵、習字などを壁に飾っている。収納家具があるので、どの居室も整理整頓され清潔感がある。利用者は自分の居室で安心して寝起きしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人々その人らしく豊かな人生を送れるように自立支援し工夫にしています。		